

[参考事項]

新技術名: カシスの枝幹害虫スグリコスカシバの発生生態 (平成25~28年)

研究機関名 果樹試験場 総務企画室 天王分場班  
担当者 照井真・大隅専一 他1名

[要約]

カシスの枝幹害虫であるスグリコスカシバの被害が秋田県内でも認められ、多発園もみられた。性フェロモントラップによる調査から、雄成虫の発生は年1回でピークは6月上~中旬の1峰性、発生期間はほぼ1か月であった。

[普及対象範囲]

県内カシス生産者及び新規生産者

[ねらい]

カシス(クロフサスグリ)は、ジャムや菓子などの加工原料として県内でも生産が増加している。しかし、カシスには枝幹害虫であるスグリコスカシバが寄生し、樹勢衰弱や枯死が全国的に大きな問題となっている。そこで、秋田県内での被害状況および発生生態を明らかにする。

[技術の内容・特徴]

- 1 スグリコスカシバは、前翅を開いた長さは雄雌ともに約20mm、前後翅とも透明、腹部は黒褐色で細く黄色い帯を持つ(写真1)。幼虫はカシスの新梢と2年枝の節間や新梢上の葉柄基部から食入することが多い(写真2)。
- 2 スグリコスカシバの被害は県内でも認められ、被害樹率が高い園地もみられる(表1)。
- 3 雄成虫の発生は6月上旬をピークとする1峰性で、発生期間はほぼ1か月である(図1)。また、越冬形態は幼虫(写真3)で、食入した枝の中で越冬し、翌春に蛹化し成虫となる。

[成果の活用上の留意点]

- 1 虫糞の排出がみられた枝は随時剪除し、被害の拡大を防ぐ。このとき、地際付近を特に注意して観察し、根域への幼虫の食入を防ぐ。また、天敵線虫剤「バイオセーフ」(線虫100万頭/L液)による薬剤防除も可能である。散布は高温乾燥日を避け、曇天や小雨の日に行う。
- 2 まれに苗木に幼虫が食入している場合があるため、新植時は虫糞排出のみられない健全樹のみを植え付ける。

[具体的なデータ等]



写真1 スグリコスカシバ成虫



写真2 葉柄基部の食入痕

表1 被害状況 (2013年)

	調査 樹数	被害樹 率 (%)
湯沢市現地①	140	90.0
〃 ②	121	88.4
果樹試験場場内	35	71.4

※湯沢市現地①及び②は隣接した2圃場

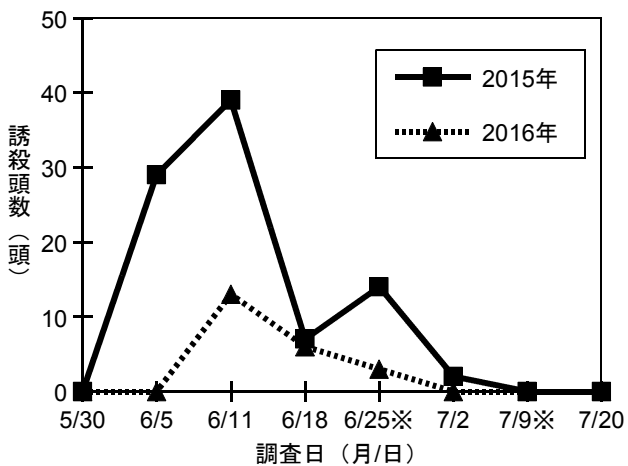


図1 スグリコスカシバ雄成虫の誘引消長 (湯沢市現地、2015・16年)

※2015年の調査日は6月26日と7月10日



写真3 スグリコスカシバ幼虫 (湯沢市現地より2012年11月26日に採取)

[発表論文等]

なし

本研究は「食料生産地域再のため先端技術展開事業「被災地の早期復興に資する果樹生産・利用技術実証研究」」により行ったものである。